［プレスリリース］ 2021/09/25

森村泰昌・三嶋りつ恵
「わたしはどこに立っている」

2021 年 10 月 30 日(土) – 11 月 27 日(土)

森村泰昌，青春の自画像（松本竣介／わたしはどこに立っている 1), 2016
発色現像方式印画, 160x124cm, ed.5

シュウゴアーツは 2021 年 10 月 30 日(土)より森村泰昌・三嶋りつ恵の二人展「わたしはどこに立っている」を開催いたします。

世界の美術史、20 世紀の歴史的人物などに扮して写真によるセルフ・ポートレイトを制作する森村泰昌と、ヴェニス・ムラーノ島で吹きガラスによる制作を続ける三嶋りつ恵の共同プロジェクトはシュウゴアーツ初の試みです。

一見して交わるところのない二人のアーティストが今展のキーワードとしたのは、森村泰昌が扮した松本竣介の自画像作品でした。「わたしはどこに立っている」と題された本作は、若くして聴力を失いながら画家を志し、戦中の国防美術の流れにも果敢に抗った松本竣介の代表作《立てる像》（1942）が主題となっています。

アーティストは自己の立つべき地平に芸術の旗を棹さし、世界と対峙して表現活動を行います。日本の地から一貫して「わたし」を主題に近現代史を再構築する森村泰昌と、ヴェニスを拠点にガラスを素材とした光の形象を追求する三嶋りつ惠は、それぞれ独自に辿り着いた場所から、芸術における現れを発表し続けてきました。今日において私たち一人一人がどこにどのように立つのか、という問いかけは混迷の時代の中でより大きな意義を持って投げかけられます。

三嶋りつ惠「IN GRIMANI」展示風景, 2013, 国立パラッツォ・グリマーニ美術館（ヴェネツィア）

今展では森村泰昌の自画像の美術史シリーズより、松本竣介に加え、ヤン・ファン・エイク、デューラー、ダヴィンチ、カラヴァッジョ、ゴッホらをとりあげ、三嶋りつ惠がそれらの人物へ捧げる新作をヴェニスで制作します。森村は主題となる人物に扮するとき、歴史的な通説であるキャラクターになりきるのではなく、自己の解釈や想像力を駆使して新たな自画像を作り上げます。今回は三嶋りつ惠もまた、それらの人物を自らの視点で分析

し、彼らはどのような作品を喜ぶだろうか、どのような光にふさわしい人物だろうかというペルソナを想定し、ガラスの贈り物をつくり上げます。

本展は森村、三嶋のコラボレーションであると同時に、過去のアーティストたちとのコラボレーションでもあります。幾層もの豊かなイマジネーションの世界で構築された本展は、時空を超えたアーティストたちの共演を楽しんで頂けるものとなるでしょう。ぜひこの特別な展覧会にご期待ください。

2021 年 9 月 シュウゴアーツ

森村泰昌, 自画像の美術史（デューラーの手は、もうひとつの顔である）, 2016
発色現像方式印画、透明メディウム, 66x48cm, ed. 10

展覧会概要

森村泰昌・三嶋りつ恵「わたしはどこに立っている」

会期：2021 年 10 月 30 日(土) – 11 月 27 日(土)

会場：シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 5 番 24 号 complex665 2F

開廊時間：火～土曜 正午 – 午後 6 時（日月祝休廊）

「アートウィーク東京」開催期間となる 11 月 4 日(木)～7 日(日)の 4 日間は、午前 10 時から午後 6 時まで開廊いたします。

*オープニングレセプションは開催いたしません。新型コロナウィルス対策のため開廊時間を短縮しておりますのでお出かけの際にはご注意ください。

アーティストについて

森村泰昌

1951 年大阪市生まれ、大阪市在住。1985 年にゴッホの自画像に扮するセルフ・ポートレイト写真を発表して以来、一貫して時代や人種、性別を超えた様々な「他者」に自らが成り代わる「自画像的作品」の発表を行う。自分ではない何かになる試みを続けながら、その根底には自分であることの意味を問い続ける。いまもなお時代精神と歴史精神の両側面に立脚し、他者及び他者の芸術成果や歴史的事件に対する独自の分析をくわえながら、自らの身体を用いて写真、映像、パフォーマンスの表現を駆使し実践としての森村芸術を展開し続ける森村芸術は多方面に影響を与え続けている。

2021 年 10 月 2 日から 2022 年 1 月 10 日までアーティゾン美術館にて個展『M 式「海の幸」－森村泰昌 ワタシガタリの神話』を開催中。

主な個展に「森村泰昌：エゴオブスクラ東京 2020—さまよえるニッポンの私」原美術館（東京、2020)、「YASUMASA MORIMURA: EGO OBSCURA」Japan Society（ニューヨーク、2018)、「森村泰昌「私」の年代記 1985~2018」シュウゴアーツ（東京、2018)、「Yasumasa Morimura. The history of the self-portrait」プーシキン美術館（モスクワ、2017)、「森村泰昌：自画像の美術史一「私」と「わたし」が出会うとき」国立国際美術館（大阪、2016)、「Theatre of the Self」アンディ・ウォーホル美術館（ピッツバーグ、2014)、「LAS MENINAS RENACEN DE NOCHE　森村泰昌展 ベラスケス頌：侍女たちは夜に甦る」資生堂ギャラリー（東京、2013)、「森村泰昌 レンブラントの部屋、再び」原美術館（東京、2013）など。

2018 年大阪に自身の美術館 M@M（モリムラ@ミュージアム)をオープン。

三嶋りつ恵

1962 年京都生まれ、1989 年からヴェネツィアに移住、2011 年より京都にも住まいを構え、二拠点を往復する生活を送る。ムラーノ島のガラス職人とのコラボレーションにより、ヴェネツィアン・ガラスの透明度や粘度を活かした、周囲に溶け込みながら光の輪郭を描き出す無色のガラス作品を制作する。空気や光を取り込んでその場のエネルギーを表現する作品は公共空間でのアートワークとしても評価が高い。

主な個展に「光の場」シュウゴアーツ（東京、2019-2020)、「IN GRIMANI」国立パラッツォ・グリマーニ美術館（ヴェネツィア、2013)、「あるべきようわ」資生堂ギャラリー（東京、2011)、「Frozen Garden / Fruits of Fire」ボイマンス・ヴァン・ベーニンゲン 美術館（ロッテルダム、2010）。主なグループ展に「アジア回廊 現代美術展」二条城（京都、2017)、「ヨコハマトリエンナーレ 2014」横浜美術館（神奈川、2014)、「第 53 回ヴェネツィアビエンナーレ 」ヴェネツィア館 （ヴェネツィア、2009）など。

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：http://shugoarts.com/topics/

ShugoArts　シュウゴアーツ　106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 5 番 24 号 complex665 2F / 03-6447-2234

掲載用画像の貸出し・お問い合わせ　本展企画担当: 石井美奈子 minako@shugoarts.com プレス担当: 大谷樹生 nayuta@shugoarts.com